



大妻多摩中学校

二〇二四（令和6）年度

入学試験問題（第四回）

【国語】

時間 50分

2月4日（日）

【注意事項】

- 1 問題は19ページまであります。
- 2 指示があるまで、この冊子を開いてはいけません。
- 3 答えはすべて、問題の指示に従って解答用紙に記入してください。
- 4 句読点やカギカッコは一字と数えてください。
- 5 ページが抜けていたり、印刷が見えにくい場合には、手をあげて知らせてください。

【一】 次の「【文章Ⅰ】」と「【文章Ⅱ】」の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

【文章Ⅰ】

① 「おおらかさ」とはいったい何でしょうか？

② 、おおらかな人というと、やさしくて、寛容で、細かいことを気にしないといったイメージではないでしょうか。一言でいうと、心にゆとりがある人を指すように思います。

でも、皆さんの周りにどれくらい③ そんな人がいるでしょうか？ 正直、私はあまり思い浮かびません。多くの人がイライラしているか、せこせこしているように感じます。とても心に余裕があるようには見えないのです。

おそらくその背景には、社会状況も影響しているのだと思います。それを象徴するのが「④ タイパ」という言葉。タイムパフォーマンス、⑤ いかに時間を短くして効率よく物事をこなすか、ということが追求される世の中になっているのです。家事

の時間を省いたり、読書を要約記事だけで済ませたり、動画を倍速で見たり。なかには映画さえ倍速で観る人もいます。

このような行動様式が好まれるのは、情報過多の時代のなかで、誰もが忙しいからなのでしょう。でも、だからといっておおらかさを蔑ろにしようと、怒りっぽくなったり、人間関係がギスギスしたりしてしまいます。そのせいで生きづらさを感じることもあるかもしれません。

相手を石だと思えば寛容になれる

⑥ それではいったいどうすれば、おおらかさを取り戻せるのか？ まず最低限心がけなければならないのは、人間関係において怒

らないということ。怒りは他者だけでなく、自分をも傷つけることになるからです。もちろん人間ですから、なぜそんな態度を取るのかと、相手の言動にカチンとくることもあると思います。

そんなときは見方を変えるのです。古代ローマの哲学者セネカが、『怒りについて』の中でこんなことを言っています。「

a 「と。

そう、怒っても破壊を生むだけなのです。ならば、逆に助けてみるのはいかがでしょう。相手がおかしな態度を取るといことは、何か問題を抱えているはず。相手もイライラしているのです。それを責めるのではなく、⑦ 助けてあげれば、相手のイライラは収まります。

その結果、自分も怒らなくて済むわけです。いろいろと考えて相手を助けることができるのは、おそらく人間だけで、ほかの動物にはまねできません。一般的にこうした態度を寛容と呼びますよね。人間は本能的に行動するだけでなく、理性を働かせることで寛容になれる生き物なのです。

怒りを抑えることができれば、次のステップとして、「仕方ない」と相手の言動を受け止めてみましょう。人は急には変わることができません。腹が立つても、相手を変えることはとても難しい。こちらが我慢するよりほかかないのです。

最初は自分が我慢することに納得できないかもしれませんが、でも、そのほうが人間関係がよくなるなら、無駄なエネルギーを使わずに済むという考え方もできます。

近代ドイツの哲学者ショーペンハウアーは『幸福について』の中で、そんな寛容さの重要性について論じています。「

b

」と云うのです。それができれば苦労はしないわけですが、ショーペンハウアーは「石を相手に練習せよ」とも言います。

たしかに石はいくら言っても言うことを聞きませんから、手ごわい練習相手になるのでしょう。私たちはどうしても、話せばわかるとか、言えば相手は聞いてくれると思いがちです。⑧、人間にも石と同じでまったく耳を貸さない人がいるものです。相手をただの石だと思えば、少し寛容になれるのではないのでしょうか。

ただ、この段階でとどまっていたら、おそろかとは言えません。もっと積極的に相手のことを考えるようになれば、自分もおおだやかでいられるはずです。

そこで参考にしたのが、アメリカの倫理学者マイケル・スロートの「成熟した共感」という考え方です。彼は『ケアの倫理と共

感』の中で、cと言っています。

私たちは相手のことを考えるとき、つい自分の視点からのみ見ようとしてしまいます。自分だったらどうだろうかと考えてしまうのです。でも、自分と相手は当然異なります。本当に相手の視点に立てるかどうかが、何を求めているかまで思いやることができるかが、おおらかにいるための鍵（ゆかり）を握（にぎ）っているような気がします。

七割か八割くらいでやめておく

他者に対してイライラしない態度を持てるようになれば、あとはもつとゆったりとした時間を過ごせるようにしましょう。そうすればせこせこすることなく、さまざまなことに目を向ける余裕が出るはずです。

タイバの強迫観念（きようはく）から自由になり、ゆったりとした日常を送るためにはどうすればいいか？ それは中国の思想家老子（らうし）が『道德経』（どうとくきやう）の中で唱えているように、満ち足りようとしなくていいことです。彼はこう言っています。

「d」と。

何かに焦（あせ）ってしまうのは、全部やろうとするからです。適当でいいのです。適当というのは、「⑨」を意味します。七割か、八割くらいでやめておく。そうすれば時間的にも精神的にも余裕が生まれるはずです。

それだとノルマがこなせないとか、評価が低くなるという人がいますが、そんなことはありません。老子も言っているように、物事は余裕があるから続けられるのです。無理をして破綻（はたん）してしまうくらいなら、余裕をもって続けたほうが最終的には評価も高くなるに違いありません。

私は最近、『前向きに、あきらめる。』という本を書いたのですが、まさに人生を前向きにあきらめることで、あえて余力を残す生き方を説いています。おおらかさとは、そんな前向きなあきらめではないかと思うのです。

あきらめるということは、決して⑩な態度ではありません。むしろやるべきことを選び、それに注力するという意味では、とても⑪な態度であるとさえ言えます。人生には無限の可能性があり、何が起るかは予測できません。

そんななかですべてをこなそうとか、完璧かんぺきに計画通りにやろう、などというのは無理な話。できなかったときには、ストレスが溜たまります。そこから逃のがれるには、本当にやるべきことに集中するために、おおらかさを手に入れるよりほかありません。おおらかさとは、この茫漠ぼうぼくとした人生をうまく生き延のびるためのコツなのかもしれません。

（小川仁志「寛容と余力で生き延びよう」『PHP 2023年11月号』〔PHP〕より）

【文章Ⅱ】

道に迷まよった人がいたとき、Aさんは「困こまっているのだから助けよう」と考え、道案内をしてあげました。同じように道に迷った人を見つけたBさんは、「困っている人を助けたことを先生に言えば、ほめられそう」と思ったので、Aさんと同じように道案内をしてあげました。

Aさんに道案内してもらった人も、Bさんに道案内してもらった人も無事に目的地へ着くことができました。

AさんもBさんも「道案内をした」という点では同じです。しかし、その動機どうきは少し違っています。Aさんは「困っている人を助きたいから道案内をした」のに対して、Bさんは「先生にほめられたいから道案内をした」のです。

（バウンド『こども倫理学 善悪について自分で考えられるようになる本』〔カンゼン〕より）

問1 【文章】の——線部①『おおらかさ』とはいったい何でしょうか?」とありますが、「おおらかさ」に対する筆者の考えとしてあてはまらないものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア おおらかさとは、つかみどころがなくはつきりしない人生をうまく生き延びるためのコツである。
- イ おおらかさとは、あえて余力を残す生き方をするような、人生における前向きなあきらめである。
- ウ おおらかさを軽んずると、人間は本能的に行動するだけでなく、理性を失ってしまうようになる。
- エ おおらかさを軽んずると、怒りっぽくなったり、円滑な人間関係の構築ができなくなってしまう。

問2 【文章】の②・⑤・⑦・⑧に入れるのに最も適切な言葉を、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二度以上使用しないこと。

- ア むしろ イ でも ウ つまり エ たとえば オ ところで

問3 【文章】の——線部③「そんな人」が指し示す内容を、本文中から九字で抜き出して答えなさい。

問4 【文章】の——線部④「タイプ」とありますが、世の中で、「タイプ」が求められ、人々がそのように行動しようとするのはなぜですか。その理由として最も適切な部分を、本文中から二十字以内で抜き出して答えなさい。

問5 【文章】の——線部⑥「それではいったいどうすれば、おおらかさを取り戻せるのか?」とありますが、このことについて、筆者はどのような段階を経ていくことで「おおらかさを取り戻」していけると述べていますか。次のア～エを、筆者の述べている順序に並べ替えて答えなさい。

- ア もつと積極的に相手のことを思えるようになること。
- イ 「仕方ない」と相手の言動を受け止めようとすること。
- ウ 人間関係において怒らないということを心がけること。
- エ もつとゆつたりとした時間を過ごせるようになること。

問6

【文章】の

a

 ～

d

 には、次のア～エのいずれかの内容が入ります。文脈的にあてはまるものを、それぞれ一つずつ

つ選び、記号で答えなさい。

- ア 相手の視点に立つてものを見て、何を求めているのかを考える必要がある
- イ 人間は相互^{さうご}の助け合いのために生まれた。怒りは破壊^{はかい}のために生まれた
- ウ この道を体得している者は満ち足りようとはしない。そもそも満ち足りようとはしないから、壊^{こわ}れてもまたできあがる
- エ 相手をよく見て、この人はいくら言ってもダメだと思ったら、もうそれ以上争うな

問7

【文章】の

⑨

 に入れるのに最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア きちんとした分量
- イ ちようどいい加減
- ウ でたらめな皮算用^{かわざんよう}
- エ あいまいな雰囲気^{ふんいき}

問8 【文章Ⅰ】の 10 ・ 11 に入れるのに最も適切なものを、次のア～エの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 絶対的 イ 相対的 ウ 積極的 エ 消極的

問9 【文章Ⅰ】の~~~~線部「本当に相手の視点に立てるかどうか、何を求めているかまで思いやることができるかが、おおらかになるための鍵」とありますが、実際は【文章Ⅱ】で述べられているように、私たちは様々な動機によって行動をしています。行動が同じでも、その動機が異なる場合もあります。そこで、【文章Ⅱ】のAさんとBさんの例についてですが、同じように人助けをした場合、動機の違いによって、あなたの評価は変わりますか。それとも、変わりませんか。あなたの考えを、その理由も含めて百字以内で答えなさい。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 早く、早く――。

一刻も早くうちに帰ってお昼を済ませ、あの女の子の待つ図書館に行かなければ。通学路を走る(注1) 神崎彩子の頭の中は、ついさつき親しくなったばかりの素敵な名前の美少女でいっぱいだった。(注2) 矢島ダイアナ――。一年生の頃に図書館で見かけてか

らずつと気になっていた彼女かのじよとついに同じクラスになった上、こんな早く親しくなれるなんて夢みたい。走る度にランドセルが揺れ、中で筆記用具ががちやがちやとぶつかり合う。一年生の時から使い続けているそれらは、今年もやっぱり買い換えてもらえなかった。

新学期、女の子たちは持ち物を一新する。光るシールや蛍光ペンや人気アニメのキャラクターがまぶしい。だけど、彩子だけはずっと同じペンケースや鉛筆えんぴつけずりだ。いずれもママが自由が丘の文房具店ぶんぼうぐてんで買ってきた、フランス製の高級品である。いくら乱暴に使用しても憎たらしいくらいに壊れにくく、新品同様のままだ。

② 地味で丈夫で長く使えるもの。それがパパとママの好みだった。でも彩子は、すぐに壊れてしまうとしても、キラキラした可愛いものが大好きだった。八歳の女の子ならごく普通の感覚だと思う。

――ああいうものは、すぐに飽きちゃうし、シックじゃないでしょう？

デパートでピアノの発表会のドレスや習い事のバッグをねだるたびに、ママはやんわりと、でも有無を言わさない口調でお願いをつっぱねる。彩子の子供らしい好みはママのおめがねに合わないのだ。フリルがたっぷりついたピンクのドレス、キラキラしたビーズで彩ったレースのバッグ。甘い色合いのそれらは、手にした女の子をお姫様ひめさまにしてくれるような強い魔力まりよくを放っているというのに。

――値段が高くて飽きのこない、質の良いものを長く使うのが、一番なのよ。(注3) 彩子にとっても地球にとっても。ママは彩子には“ほんもの”がわかる女性になつてもらいたい。

ママのことは好きだけど、ママの言う“ほんもの”が“にせもの”より素敵だとは思えなかった。同じピアノ教室に通うみかげ

ちゃんはいよつちゅうパパとママにおねだりして、にせもの“を買って貰い、得意げに見せびらかしている。みかげちゃんは味噌っ歯だし鼻が上を向いていて、絶対に可愛いものが似合う容貌ではないのに。それに引き換え、ダイアナちゃんは、まさにキラキラしたものを身に付けるために生まれてきたようなとびきりの美少女だ。

今日、新しいクラスで、窓から差し込む日の光を浴びてきらきら輝く金髪を見付けた瞬間、^④ あつと声をあげそうになった。金色の透けるような髪、びっくりするほど小さな顔。大きな瞳は相手を吸い込むような深いはしびみ色で、長い睫がびっしり縁取っている。きつと外国の血が入っているに違いない。おまけにダイアナちゃんが着ているのは、彩子が憧れている、あのキャラクターのTシャツ——「ダンシン☆ステファニー」は小学校低学年の女の子に拔群の人気を誇っている。プレイヤーがステファニーという女の子の洋服をコーデインートし、彼女になりきってライバルらとダンスで対戦しながらポイントを稼いでいくテレビゲームだった。ゲームの世界観そのままのアニメは、日曜日の朝放送しているらしいが、彩子はパパとママの方針でテレビを見せてもらえず、テレビゲームだつて買ってもらえないのだ。遊んだのはお正月にいとこの家に行った時の、ただ一度だけだ。あの時の、脳がしびれ体が操られるように勝手に動き出す感覚は今も忘れがたい。

でも、ああいう可愛い女の子はいじめっ子に目をつけられるから大変だ。自己紹介するダイアナちゃんを見て、隣に座る武田君という男の子がぼそつとつぶやいたことを思い出す。

——変な名前だな、ダイアナなんて。どう見ても日本人じゃなか。

意地悪な物言いにむっとした。武田君とは一年の時から同じクラスだったけど、ちゃんとしやべるのはそれが初めてだった。

——あら、素敵な名前じゃないの。新しい友達のことをそんな風に悪く言うなんて、良くないわよ。

彩子がたしなめると、武田君はかすかに顔を赤らめて怒ったようにプイと横を向き「がみがみ女！」と毒づいたつけ。嫌いたければどうぞご自由に——。信号を待つ間にあの不快な気分を思い出し、彩子は小さく身を震わせてランドセルを背負い直す。こつちだつて男の子なんか乱暴で大嫌い。お肉屋さんの一人息子の武田君は、勉強はさっぱりだけどサッカーが得意な体の大きい人気者だ。女の子の中でもおませな子は、武田君がいいよね、なんて騒いでいるけれど、彩子にはさっぱり魅力がわからない。

彩子がいいなあ、と思うのは、デイズニーアニメに出てくるような白馬にまたがった優しい王子様。もしくはパパのように温かくて頼れる大人の男の人だ。

ダイアナちゃんはきつと複雑な家庭に育った、おとぎばなしのヒロインのような女の子に違いないのだ。せっかくのTシャツも小柄な彼女にはちよつとぶかぶかだし、上履きも汚れている。でもきつとあれば仮の姿で、本当は小公女セーラみたいな、良家の子女なのだ。彼女だったらティアラやパフスリーブ、マフや馬車もなんの違和感もなく似合うだろう。彩子から声をかけたら、ダイアナちゃんのはにかみながらも図書館に誘ってくれた。いつ見かけても一人で居る彼女が、一緒に遊ぶことを許してくれた――。誇らしさと晴れがましきでいっぱいで、終業ベルが鳴るのが待ち遠しくてならなかった。

家に着き、玄関のドアを開けると、ダンがキャンキャンと激しく吠えながら出迎えてくれた。足下にじやれついてきた褐色の親友をよしよしと撫でてやる。玄関には女性物の靴がずらりと並んでいた。複数の香水とキッチンから漂うブイヨンの匂いで、今日が料理教室の日だったことを思い出す。二年前からママが家で始めた教室はいつも定員オーバーで、キッチンはいろんな歳の女の子であふれかえっている。

「ママ、ただいま。みなさん、こんにちは。ごゆっくりどうぞ」

「あら彩子、おかえりなさい」

《中略…一度家に帰った彩子は、自宅で昼ご飯を食べてから、ダイアナと約束していた中央図書館へと向かった。図書館前のベンチに腰掛けるダイアナの横にはランドセルが立てかけてあり、学校が終わってからそのまま図書館へと来たこと、昼ご飯は一人でお店で買って食べたことを聞いた。》

ふと視線を横に移動し、彩子はあつと声を上げそうになる。立てかけられたランドセルは午後の光を浴び、なにやらキラキラと反射していた。触っていい？ と断って手を伸ばす。赤いランドセルには色とりどりのダイヤのような石で模様が描かれていた。同級

生の間で噂になつてゐる、評判の可愛いランドセル。強烈なうらやましさに彩子がかすかに目眩を覚える。そつと触れたダイヤは冷たくてつるつるしていた。

「すごいね。このランドセル。みんなうらやましがつてるよ。どこで売つてるの？」

「ティア……、ええと、お母さんが飾りがいいからうたつて、勝手にやつちやつたの」

⑤ ダイアナちゃんは何故かうんざりした顔で答えた。唇がケチャップで赤く濡れている。彼女はそれをTシャツを使って乱暴にぬぐい、指先をぺろぺろなめた。そんな仕草は、本に出てくる「みなし子」そのもので、彩子は無条件で敬意を払つてしまう。

「これママがやつてくれたの!？」

「なんだかゴチャゴチャ飾り付けるのが好きな人なの。お母さんは物を見ると、なんでもこうするの。テレビのリモコンからパソコンまで、家中。莫迦みたい。爪や携帯電話もそう。ほら、みてよ。学校で見つかるとうすぐ叱られるって言つてるのに」

ダイアナちゃんが無造作に突き出した指先には、お花や蝶々や星がちよこんと描かれている。あまりの愛らしさに、彩子はほうつとため息を漏らした。

「ダイアナちゃんのママつてすごいなあ」

ランドセルや指先をあんな風に飾ることができたらどんなに素敵だろう。ため息まじりに彩子は思った。彼女がうらやましい。パパもママも大好きだけど、こんな風にクラスメイトと話すたびに、⑥ 自分がいかに多くのことを禁じられて、狭い世界で生きているかを痛感する。ハンバーガーを食べ終え、包み紙をくしゃくしゃと丸めながら、ダイアナちゃんが言った。

「私は彩子ちゃんがうらやましいな。なんていうか、シブくて格好いい」

「えー、やだ。シブいなんて。おばあさんみたいな言い方」

思い切り顔をしかめてダイアナちゃんを睨んだ。すると彼女はくすりと笑つた。整つた顔が優しくゆるんで、春の木漏れ日の中にとけていくみたいだ。

「そう? でもさ、赤毛のアンのよそきドレスも茶色だよ。ピンクじゃなくて。本当に格好いいものつてそういうもんなんじゃないな

いかな。飽きなくて、こてこてしてなくて、相手を不安にさせなくて、その人の髪や肌や目の色にすつとなじんで」

⑦ まさか同い年の女の子の口からママと同じような言葉を聞くななんて思わなかった。ダイアナちゃんは心底嫌そうに自分のTシャツをつまんでみせた。

「恥ずかしい。こんなTシャツ、子供っぽい。来年には着れないよ。でも、うちのお母さん、子供はこのアニメが好きだつて思い込んで、すぐにグッズを買うの。おまけに毎晩ゲームに付き合わされるんだよね」

「『ダンシン☆ステファニー』を持つてるの？ しかもママと遊ぶの？」

自分でも声が震えているのがわかる。そんなに物わかりのいいママがこの世に存在するなんて。ダイアナちゃんばかりがこんなに恵まれてもいいのだろうか。⑧ さすがに不公平に感じられ、喉の奥が熱くなってくる。

「うん、明け方にたたき起こされて朝まで付き合わされるの。寝かせてくれないんだよ。お母さんにとってほとんど日課なの。スポーツジムに行くお金がもつたないからつて。ダイエツトにちようどいらしくて」

「はあ、いいなあ。私の夢だよ……。『ダンシン☆ステファニー』で好きなだけ遊ぶの」

彩子が羨ましそうにつぶやくと、ダイアナちゃんはしばらくためらった後で、遠慮がちに彩子を見た。

「よければ……。今度遊びに来る？ うちに。好きなだけやらしてあげる、『ダンシン☆ステファニー』。その……。ごちゃごちゃしている家でよければ」

彩子は飛び上がりばかりに喜び、思わず彼女の手を取った。

「わああつ、いいの？ 本当にありがとう！ 私もダイアナちゃんに何かしてあげられたらいいんだけど……。ダイアナちゃん、欲しいものとかやりたいこと、ある？」

ダイアナちゃんはびくりしたように目を逸らす。しばらく足下の水たまりに視線を落とした後、ぽつりとつぶやく。

「やりたいことかあ。早く大人になることかなあ。大人になったら何でも自由に選べるでしょ、ご飯も持ち物も。私、大人になったら自由に名前を選びたいんだ」

「えっ、ダイアナっていう名前、嫌いやなの？ 可愛いのに」

「可愛くなんてないよ。だーいつきらい」

ダイアナちゃんは鼻にしわを寄せて、いーつと歯をむき出しにしてみせた。いつの間にか、二人は昔からの仲良しみたいに、すっかりくだけた口調になっていた。

「十五歳になったら名前って自由に変えられるんだって。そうしたら私、普通の名前に変えるの。それと、お父さんを探しにいくんだ。こんな名前にしたことの文句を言ってみよう」

彼女の話にはぞくぞくさせられる。十五歳、自分で名前を付ける、パパを探す旅。

本当に物語のヒロインみたい。自分の思い込みこまに間違いまちがいはなかったのだ。ああ、なんてドラマチックなんだろう。彩子⑨はうつとりとダイアナちゃんを見つめた。

(柚木麻子『本屋さんのダイアナ』〔新潮文庫〕より)

(注1) 神崎彩子——裕福な家庭で育っている夢見がちな女の子。

(注2) 矢島ダイアナ——両親は日本人で、母親の好みで髪を金色に染めている。

問1 —線部①「早く、早く——」とありますが、彩子はなぜ急いでいるのか、その理由を説明したものとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 少しでも早く図書館に行かなければ、以前ダイアナが読んでいて読みたいと思っていた本が誰かに借りられてしまうから。
イ いつ見かけても一人で居るダイアナが、一緒に遊ぶことを許してくれたことが嬉しく、一刻も早く図書館に行きたいから。
ウ 早く帰って図書館に行く準備をしなければ、せっかく仲良くなったダイアナが図書館から帰ってしまうかもしれないから。
エ 何度も誘って、やっと一緒に図書館に行く約束をすることができたダイアナと、少しでも長く一緒にいたいと思ったから。

問2 —線部②「地味で丈夫で長く使えるもの」とありますが、このような特徴のものを言い換えた言葉を、ここより後の本文中から四字で抜き出して答えなさい。

問3 —線部③「彩子にとっても地球にとっても」とありますが、一般的に物を長く使うことが地球にとって大切であると考えられるのはなぜですか。地球が現在抱えている問題にふれながら、その理由を百字以内で答えなさい。なお、そのことを考える際に、次に挙げた「持続可能な開発目標（SDGs）」を参考にしてもよい。

【参考】



問4 — 線部④「あつと声をあげそうになった」とありますが、彩子がそのような行動をしそうになった理由を説明したものとし

て最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ずっと気になっていたダイアナと、とうとう同じクラスになったから。

イ 日の光できらきら輝く金髪かがやのダイアナを見つけ、羨ましく思ったから。

ウ ダイアナの髪や顔かみ、瞳の色で、外国の血が入っていると確信したから。

エ 可愛いダイアナが、いじめっ子に目を付けられることを心配したから。

問5 — 線部⑤「ダイアナちゃんは何故かうんざりした顔で答えた」について、次の問いに答えなさい。

(1) この時の彩子の気持ちとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ダイアナも可愛い物が好きだと思っていたが、可愛いランドセルを気に入っていないと知り、驚く気持ち。

イ みんなから可愛いと評判のランドセルが実はどこにも売っていないと知ってしまい、残念で悲しい気持ち。

ウ 可愛らしく飾り付けられたランドセルを褒めたのに、ダイアナの反応が嬉しくなさそうで不思議な気持ち。

エ ダイアナの好みが自分の好みとは正反対であることに気付き、ダイアナの好みを受け入れられない気持ち。

(2) この時のダイアナの気持ちとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 飾り付けるのが好きな母親の好みが自分の好みとは合っておらず、いやになってしまう気持ち。

イ 自分に何も言わずに勝手に飾り付けてしまった母親の行動に納得がいかず、腹立たしい気持ち。

ウ 母親が飾り付けてくれたものを怒られてしまうのが残念で、素直に喜ぶことができない気持ち。

エ 本当はランドセルを自慢じまんしたいが、彩子に嫌われたくないので本心を隠かくそうとしている気持ち。

問6 — 線部⑥「自分がいかに多くのことを禁じられて、狭い世界で生きているかを痛感する」とありますが、文章中で彩子が禁

じられているものとして、**あてはまらないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。**

ア いくら乱暴に使っても壊れにくい高級文房具を買ってもらうこと。

イ フリルがたつぷりかついたピンク色のドレスを買ってもらうこと。

ウ キラキラしたビーズで彩ったレースのバッグを買ってもらうこと。

エ 「ダンシン☆ステファニー」のテレビゲームを買ってもらうこと。

問7 — 線部⑦「まさか同い年の女の子の口からママと同じような言葉を聞くななんて思わなかった」とありますが、彩子が「同じ

ような言葉」と考えていると思われるママ（彩子のお母さん）の言葉を、——線部④より前の本文中から一文で二つ抜き出し、

それぞれの最初の五字を答えなさい。

問8 —線部⑧「さすがに不公平に感じられ、喉の奥が熱くなってくる」とありますが、なぜ彩子はこのように感じるのですか。

彩子の気持ちを説明したものとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 自分が求めているものをすべて持っているダイアナが、まったく嬉しそうではなく、むしろ不満を抱いている様子に気がき、それが幸せであることが分からないほど恵まれているのだと思い、自分の置かれた環境との違いを痛感したから。

イ 欲しいものも好きなものも認めてくれない自分の母親に比べ、ダイアナの母親は彩子が求めているもののほとんどをダイアナに与えてくれるだけでなく、共に楽しんでいることを聞き、子供心を理解してくれる母親を羨ましく思ったから。

ウ キラキラとしたものを好む彩子は落ち着いたものを好む母親を持ち、落ち着いたものを好むダイアナはキラキラとした飾り付けのものを好む母親を持つという、母と子とで好みがちぐはぐである状況を知り、恨めしい気持ちになったから。

エ ダイアナよりも絶対に「ダンシン☆ステファニー」が好きであるにもかかわらず、好きでもなさそうなダイアナは洋服やゲームを買ってもらい、自分は頼んでも買ってもらえないことが悲しく、ダイアナに対して腹立たしきを感じたから。

問9 —線部⑨「彩子はうつとりとダイアナちゃんを見つめた」とありますが、それはなぜですか。その説明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

のを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「自分で名前を変える」「お父さんを探しに行く」という行為は、彩子自身がずっとやってみたいと思っていたことでもあり、さらに早く大人になりたいというダイアナの気持ちに心の底から共感したから。

イ 「自分で名前を変える」「お父さんを探しに行く」という行為は、彩子の想像していたヒロイン像と重なり、また、憧れているダイアナの本心を聞くことができ、さらにダイアナに夢中になっているから。

ウ 「自分で名前を変える」「お父さんを探しに行く」という行為は、彩子には考えられない行為であり、また、自分が可愛いと思っているダイアナの名前を本人が嫌いであつたことを知り衝撃を受けたから。

エ 「自分で名前を変える」「お父さんを探しに行く」という行為は、彩子にとってはまるで物語の出来事のように、さらに自分の力で生きていくとするダイアナの存在が物語の主人公のように思えたから。

問10

次の会話は、生徒同士が「彩子」という登場人物について語り合っている場面です。これらの生徒の発言の中で、誤ったことを言っている生徒を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 生徒A「彩子は、ダイヤモンドのことを『おとぎばなしのヒロインのような女の子に違いない』とか『きつとあれは仮の姿で、本当は小公女セーラみたいな、良家の子女なのだ』と思っていることから、ダイヤモンドに憧^{あこが}れていることが分かるね。」

イ 生徒B「『本当に物語のヒロインみたい。自分の思い込^こみに間違^{まちが}いはなかったのだ。ああ、なんてドラマチックなんだろう。』という言葉からは、彩子が夢見がちな女の子だということも分かるんじゃないかな。」

ウ 生徒C「彩子は、パパとママに禁止されていることが多すぎて、自分の気持ちを誰にも伝えることができずに毎日を過ごしているんだろうね。だからこそ、自由に過ごしているダイヤモンドに嫉妬^{しつと}しつつも惹^ひかれてるんだよ。」

エ 生徒D「彩子にとってダイヤモンドは、自分とは違^{ちが}う考えを持っていたり憧^{あこが}れている物を持っていたり、自分とは違う世界を生きている憧れの女の子で、色々な刺激^{しげき}をくれる友達なのかもしれないね。」

三

次の各問いに答えなさい。

問1

次の①～⑤の文の――線部のカタカナを適切な漢字に改めなさい。

- ① ロンドンで華やかなシキテンがとり行われる。
- ② 気象庁が、センジョウ降水帯の予測情報を発表する。
- ③ 日銀ソウサイの発言が注目されている。
- ④ 多くの企業はダンチヨウの思いで値上げに踏み切った。
- ⑤ 広島市で先進国シユノウ会議が行われた。

問2

次の各文には、間違った漢字が使われています。例に従って、その漢字を一字抜き出し、それぞれ正しく書き直しなさい。

例

スズメは、数話で並んでいる姿が愛らしい。

(誤) 話 ↓ (正) 羽

- ① 日本経財が下向きになったと言われるが、楽観視する意見もある。
- ② 自分の得意なことを発表する機械があり、多くの友達ができた。
- ③ 体操服を忘れ、絶対絶命の大ピンチにあせっているところで目が覚めた。
- ④ 慣用句について新聞を作る課題があり、国語字典を参照した。
- ⑤ なくしてしまった電車の定期券が、落とし物として警察所に届けられた。

以下余白

